

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアステキっず		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携を重視し、半年に1回、全家庭に案内させて頂き希望者に対して面談の機会を設けている。希望者には個別面談を実施し、支援内容の共有および家庭での困りごとの聞き取りを行っている。家庭と連携した支援体制の構築に努めている。	保護者が相談しやすい雰囲気づくりを意識し、小さな不安でも気軽に話していただける関係性づくりを心がけている。	保護者が相談しやすい環境づくりの一環として、相談方法(電話・対面等)を改めて周知し、より利用しやすい体制を整えていく。
2	毎回の連絡帳による詳細な報告に加え、必要時には電話相談にも対応するなど、日常的に相談しやすい体制を整備している。	児童の小さな変化や気になる点については、連絡帳だけでなく送迎時にも直接保護者へ報告することを意識している。対面での説明を行うことで誤解を防ぎ、家庭と事業所が同じ方向性で支援できるよう努めている。	より質の高い支援を提供するため、職員研修の体系化を今後の重点課題とする。年間計画に基づく研修実施と振り返りを行い、継続的な専門性向上を図っていく。
3	土曜日・祝日も営業をしており、長期休みには朝から夕方まで比較的長時間利用ができることに加えて、送迎の対応を柔軟に行っている。	保護者の負担軽減も事業所の重要な役割の1つと捉え、利用しやすい事業所を目指している。	児童が楽しみにをもって継続的に通えるよう、5領域に沿った活動プログラムを充実させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の専門性向上を目的とした研修について、外部研修など年間計画に基づく研修以外でも継続的な資質向上を図ることが課題である。	日常業務が優先されるため、職員が研修や勉強会に参加する時間を十分に確保することが難しい。 また職員の経験年数や専門分野の違いにより、必要とする研修内容や学びの機会に差が生じている可能性がある。	外部研修への参加機会を増やすとともに、職員が主体的に学び、成長できるような支援体制を整備する。研修内容を事前に共有し希望を反映できる仕組みや、研修後の職員間共有の場を設けることで、個々の専門性向上とチーム全体の支援力向上を図る。
2	面談が希望者のみであるため、面談を希望しない家庭とは直接的な対話の機会が少なく、保護者との関係構築や情報共有が不十分になる可能性がある。	保護者面談については、半年に1回全家庭へ案内を行っているが、希望制での実施となっているため、全家庭との定期的な対面機会の確保には至っていない。よりきめ細やかな連携を図るため、面談実施方法の工夫や機会の拡充が今後の課題である。	面談を希望されない家族に対してのアプローチの方法を再検討し、保護者との関係性をより一層良い形が築けるように心がける。
3	日々の情報共有をリアルタイムに行えない場合や、出勤頻度も踏まえて児童への理解度も職員毎にバラつきがある。 児童一人一人に対してマンツーマンでかかわる時間が確保しにくい中、児童の特性も個々で違う分対応が難しいケースもある。	事業所の営業時間が長く、送迎も対応しているため、営業前・営業後の振り返りなどかけられる時間が限られている。 多様なこどもを対象にしたプログラム設定となっているため、児童によっては退屈なプログラムであったり、難しすぎるプログラムとなっていることがある。	職員が日々の情報を共有できるような仕組みの構築が必要と考えている。